

「防御」と「備え」の部分対策から 全体を捉えた「攻め」の対策へ

多くの企業・団体でセキュリティ対策に関連したさまざまな製品やシステムの導入が進みつつある今日、(株)ソリトンシステムズ(以下、ソリトン)では、これまでの「防御」と「備え」を目的とした対策から、生産性の向上や経営の効率化といった企業価値の向上を目的とした「攻め」に転じるセキュリティ対策を提案している。ここでは、ソリトンにおけるセキュリティ対策への取組みと自社開発製品の特長について、執行取締役兼法人営業本部 本部長の山原崇氏にお話をうかがった。

ソリトンでは、いつ頃からセキュリティ製品の開発に取り組まれてきたのでしょうか。

山原 当社では、セキュリティ技術にいち早く着目し、10年以上前から自社の開発部門にて、ICカードソリューションやVPN、ログ管理ツールなどの製品を開発・販売し、通信事業者や金融機関を中心に多くの導入実績を残してきました。現在も、長年にわたり蓄積してきた技術とノウハウを結集し、迅速な導入とスムーズな運用・維持を実現するセキュリティ製品およびソリューションの提供に取り組んでいます。

自社開発した製品の中で、現在、注力しているものは何でしょうか。

山原 情報漏洩対策に関連した製品である「SmartOn(スマートオン)」と「InfoTrace(インフォトレース)」があげられます。SmartOnは、ICカードやUSBキーなどの認証デバイスを使用して、PC利用時のユーザー認証の強化やデータへのアクセス制御、暗号化、ログ管理などをトータルに実現し、重要データの漏洩を事前に防止するPCセキュリティ

ソフトウェア製品です。一方InfoTraceは、社員各々のPC操作をフライトレコーダー式にロギングして、電子データを中心とした情報流出過程の追跡を支援するソフトウェア製品です。不正行為に対する抑止力と迅速な原因究明の両面から、内部情報漏洩を抑制します。この両製品は、国内大手通信事業者様が提供しているセキュリティソリューションの中核製品に採用されています。

また、ネットワークアクセス制御アプライアンス製品「Net' Attest Security Filter」と、プライベートCAを搭載したEAP認証アプライアンス製品「Net'Attest EPS」。ネットワーク内の機器の資産管理、サーバー監視、ネットワーク監視などを統合したシステム管理ソフトウェア製品「e-Care(イーケア)」にも注力しています。

ソリトンのセキュリティ製品の特長は何でしょうか。

山原 資産管理やログ解析といった1つのカテゴリーに特化したベンダーが多い中、当社では、セキュリティソリューション全体を俯瞰的に捉



(株)ソリトンシステムズ
法人営業本部
執行取締役 本部長
山原 崇氏

えて、全てのカテゴリーに対応したトータルソリューションの実現を重要視してきました。そのため、製品同士の親和性が高く、目的に応じた組み合わせが容易です。

これからのセキュリティ対策には、どのようなことが求められてくるのでしょうか。

山原 これまでのセキュリティ対策は、「防御」と「備え」を目的とした部分的な対策が主流でした。しかしこれからは、全体を捉えた「攻め」の対策へと移行していくと思います。企業に散在する情報(データ)やリソースの管理を高度化することで、業務スタイルを変革し、生産性の向上や経営の効率化を図ることで、企業価値が向上していきます。当社では、個々の製品を1つのプラットフォーム上で提供していく製品体系「ソリトン・スマート・セキュリティ」を2005年度中に実現し、企業価値を高めていくセキュリティソリューションを提供していきます。

導入事例 白河信用金庫様（はくしん情報セキュリティシステム）

アクセス制御と操作ログの収集により 強固なPCセキュリティを実現

ICカード認証をベースとした PCセキュリティシステムを導入

福島県白河市を中心とした福島県南地方と栃木県北地方の一部を主要営業地区としている白河信用金庫は、「個人情報保護法」の金融庁ガイドラインにおける「安全管理措置についての実務指針」にIT面から対応するために、本部および全営業店に入退室管理システムを2005年4月から5月にかけて導入した。本システムは、金庫室、書庫、データサーバ室などへの不法入室者と情報漏洩を防ぐことを目的としたもので、非接触型ICカード「フェリカ」で作成した「IC職員証」により、各室への入退を管理・監視するとともに、入退履歴をデータに保存して定期的に検証を行っている。

白河信用金庫では、入退室管理システムの導入と同時に、情報漏洩が内部から起こることを想定し、その対策として、ICカード認証をはじめとしたPCに必要なセキュリティ機能をAll-in-Oneで提供するPCアクセス制御ソフトウェア「SmartOn NEO」と、収集したPCログから流出経路を追跡する、PC利用ログ収集・解析ソフトウェア「InfoTrace」、さらに、OS（基本ソフト）やアプリケーションソフトの問題点を適切に修復して常に最新のセキュリティ状態を確保する資産管理ツール「e-Care」の導

入を2005年6月に行った。導入への決め手は、これらの製品の使い勝手の良さ、最もニーズに適していたということである。

お客様の信頼に応えるために セキュリティに対する意識を改善

本セキュリティシステムの導入の経緯と目的について、白河信用金庫事務統括部 部長の斎藤英夫氏は次のように語っている。

「はじめにICカード（IC職員証）による本人認証とアクセス制御を行うSmartOn NEOの導入を検討しました。一方、情報漏洩を防ぐためには、事前の対策と万一流出した場合はいち早く原因を究明することが必要だと判断し、PC操作ログを記録して、ログの検索と流出原因と経路を追跡するInfoTraceの導入も決定。さらに、管理者の負担を軽減するために、資産台帳作成機能や持ち込みPCの自動検出、ソフトウェアのライセンスや機器のライフサイクルを管理・監視するe-Careの導入も決定しました。本システムの導入の目的は、セキュリティに対する職員の意識を改善することです。例えば、PC操作ログの収集を周知徹底させることで、精神的抑止効果が高まったと思います。今後も、より一層のセキュリティ対策に努め、お客様の信頼にお応えしていきます。」



白河信用金庫 本部

2005年1月に創立80年を迎えた白河信用金庫は、地域金融機関として金融商品・金融サービスの提供だけでなく、文化・環境・教育といった面についても広く地域社会に貢献している。



白河信用金庫
事務統括部
部長
斎藤 英夫氏

白河信用金庫では、現在、本セキュリティシステムにより120台のPCを管理・監視を実施している。具体的には、USBメディアやCD、FDなどデバイスへの不正コピーの禁止やアプリケーションの利用制限などをSmartOn NEOで行い、データコピーやプリントアウトの持ち出し、Webメールによる外部へのデータ送信の監視、Webページの閲覧監視、重要なファイルサーバへのアクセス監視などをInfoTraceで行っている。

お問い合わせ先

(株)ソリトンシステムズ
ネットワーク営業部

TEL : 03-5360-3811

URL : <http://www.soliton.co.jp/>